

宮城県感染症発生動向調査情報(第19週)

宮城県【平成27年05月14日】発行

宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

- 2015.5.4 ~ 5.10 ・ 第19週 -

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙台市	宮 城 県 (含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第16週	第17週	第18週	第19週
水痘	13 2.60	4 0.40			3 1.00	2 0.40	1 0.50	13 0.50	36 0.62	724	→	○→	○→	○
流行性耳下腺炎	1 0.20	1 0.10						3 0.12	5 0.09	144	→	→	→	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	35 7.00	26 2.60	12 2.40	5 2.50	10 3.33	14 2.80	14 7.00	110 4.23	226 3.90	9,514	◎→	◎→	◎→	◎
手足口病	2 0.40							14 0.54	16 0.28	253	→	→	○→	レ
伝染性紅斑	3 0.60	5 0.50	4 0.80			1 0.20	3 1.50	7 0.27	23 0.40	964	○→	◎→	◎→	レ
突発性発しん	2 0.40	4 0.40	3 0.60		2 0.67	3 0.60	2 1.00	14 0.54	30 0.52	598	○→	○→	○→	○
ヘルパンギーナ			1 0.20						1 0.02	15	→	→	→	
インフルエンザ	4 0.50	1 0.07			2 0.40	19 2.38	7 1.75	11 0.26	44 0.47	19,351	◎→	◎→	◎→	○
咽頭結膜熱	5 1.00	3 0.30	1 0.20			5 1.00		7 0.27	21 0.36	291	→	→	→	
流行性角結膜炎		1 0.33							1 0.08	57	→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11 2.20	15 1.50	5 1.00	1 0.50	1 0.33	1 0.20	1 0.50	34 1.31	69 1.19	2,705	○→	◎→	◎→	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎			1 1.00	1 1.00			3 3.00	2 0.40	7 0.58	132	→	→	→	
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症								2 0.08	2 0.03	323	→	→	→	
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	1		2			3	1	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向					
	川崎病	1						1	《週報の詳細》宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans//kansen-center.html					
	不明発疹症		1				1	5						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)※			1					1	2	71				

今週の全数報告疾病

*男児、女児は6歳未満

1類感染症:報告なし

2類感染症:結核

塩釜管内 男性1名
大崎管内 女性1名
石巻管内 男性1名
仙台管内 男性2名

3類感染症:腸管出血性大腸菌感染症(O26)

仙台管内 女性1名(第17週)

4類感染症:つつが虫病

仙南管内 女性1名(第18週)

5類感染症:アメーバ赤痢

仙台管内 男性1名

侵袭性肺炎球菌感染症

仙台管内 女性1名

梅毒

仙台管内 男性1名

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告)2例

今週の感染症のコメント

— 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

[伝染性紅斑]
気仙沼管内で警報継続中。

【病原体検出情報】
～宮城県保健環境センター～
病原体検出なし

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確 定 中 間 報 告		
	第16週採取分 (4.13～4.19)	第17週採取分 (4.20～4.26)	第18週採取分 (4.27～5.3)
RSウイルス	0件	1件	1件
アデノウイルス	0件	4件	0件
エンテロウイルス	0件	0件	1件
単純ヘルペスウイルス	0件	2件	0件

[つつが虫病]

仙南管内で今年2例目のつつが虫病患者の発生がありました。つつが虫病は、ダニの一種であるツツガムシに刺されることによるリケッチア症で、高熱、発疹などの症状が見られます。農作業中に座って刺された例もありますので、山林、河原などに入る際には素肌を出さないようにするなどの予防対策を行ってください。

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群	0～4歳 (%)	5～9歳 (%)	10～14歳 (%)	15～19歳 (%)	20～29歳 (%)	30～39歳 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70～79歳 (%)	80歳～ (%)	総数 (人)
2015年 第17週		21.9	41.9	17.5	1.3	2.5	4.4	5.0	3.8	0.6	1.3	0.0	160
第18週		27.5	28.4	11.8	5.9	2.0	4.9	9.8	5.9	2.9	1.0	0.0	102
第19週		18.2	38.6	13.6	2.3	6.8	9.1	6.8	0.0	2.3	2.3	0.0	44

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第16週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県(7.36)、山形県(6.15)、福島県(4.35)が多い。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は88例と前週と比較して増加した。年齢別では0歳(7例)、1～9歳(16例)、10代(6例)、20代(1例)、30代(6例)、50代(2例)、60代(12例)、70代(10例)、80歳以上(28例)であった。RSウイルス感染症: 報告数は776例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約79%を占めている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別では鳥取県(6.26)、石川県(5.79)、新潟県(5.41)が多い。感染性胃腸炎: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別では大分県(15.22)、宮崎県(12.89)、山形県(12.40)が多い。手足口病: 定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では島根県(5.22)、佐賀県(2.74)、熊本県(2.50)が多い。伝染性紅斑: 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では滋賀県(1.69)、東京都(1.50)、石川県(1.45)が多い。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る): 定点当たり報告数は横ばいであった。43都道府県から223例報告があり、年齢別では0歳(17例)、1～4歳(161例)、5～9歳(28例)、10代(5例)、20代(1例)、40代(1例)、70歳以上(10例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数

インフルエンザ定点

小児科定点と内科
定点を合わせたも
ので、県全体で95
定点(県:51、仙台
市:44)となりまし